



なきごえ



1988

3

大阪市
天王寺動物園協会

根ヶ山光一



数年前に私は西ドイツのフランクフルト動物園を訪ねる機会があったが、その一角には、世界で最も危険な猛獣が展示されていた。しかし、実際にはその檻に動物は飼育されておらず、ただ一枚の大きな鏡がすえつけてあるだけであつた。つまり、その動物は「あなたがた自身」というわけだ。なかなか気の利いた趣向ではないか。

しかし私は、こうも思う。動物はすべて私達にとっての「鏡」ではないかと。私達はよく、動物の中に自分と同じくさを見つけて、楽しい驚きを感じることもある。これは、動物の中に自分が映っていることの発見である。ただしこの動物という名の鏡の面は平ではなく、したがってそこに映る私達の姿も、時としてある部分が誇張されていたり、また時としてある部分が貧弱だったりする。その意味では、私達にとって動物は、自分の姿をありのままに映す等身大の鏡であるというよりもむしろ、自分を重ね合わせてみる対象であるといった方がよいかもしいない。

動物の中に自分を重ねてみると、そこに自分と同じものを発見するかも知れないし、また自分とは異なるものを見いだすかもしれない。そのことを通じて私達は自分の特質をより深く知ることができるのである。つまり私達は、ある意味において、自分を見るために動物園に足を運ぶのだ。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

なぎごえ3月号もくじ

動物と私 2

“今年はいじめの赤ちゃんで～す!” 3

動物園グラフ・動物園日記 4-5

芸猿達のエピソード 6-7

小形ネコ舎を担当して 8-9

キーバズ・アイ 10

動物園ニュース 11

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

私達は、少しオーバーな表現を用いれば、私達の誇るべき文明の力によって、哺乳類の限界をすら超えた。それは何かというと、人工乳の発明である。それによって私達は、自前の乳をいっさい与えずとも赤ん坊を育てることができるようになったし、また私達は、雄が授乳可能な唯一の哺乳類ともなった。これは哺乳類にとって、まさに革命的なことである。

それによって私達には、確かに生物としての新しい可能性がいろいろとひらけてきた。しかしながら、そうして育児を任意に自己コントロールできる能力を身につけたということは、見方を変えれば、私達の子育てを、自分達の判断と責任において、手探りでやっを行かねばならないという状況を生み出したということにもなる。

ところが、ときばきと私達はその状況を処理しているとは、お世辞にもいえない。むしろ今ある私達の育児の混迷ぶりは、まったく目を覆いたくなるばかりである。動物達の育児を含めたおおらかな生きざまに接すると、つくづく人間とは因果な生き物だなあと嘆息したくなる。

私達が自分本来の姿を見失って混迷しているときには、動物の生活について正しく知ることが大きな力となりうる。これは道に迷った私達が、動物の生きざまを道しるべとすることであり、いいかえれば「動物に学ぶ」ことだ。育児においても、そのことは非常に有効であるに違いない。しかし、動物に学ぶということは、単純に動物に迎合してその生きざまを盲目的に受け入れることではない。卑屈にならず、かといって傲慢にもならない、そういった節度のあるつきあい方が動物との間でできなければならない。これがなかなか容易なことではないのだが。

(武庫川女子大学文学部講師)

表紙の写真説明

スローロリス
Nycticebus coucang

東南アジアに生息する原猿類で夜に活動します。名前の通り動きがスローで、捕えるのは容易ですが、野生ではめったにみられない動物です。

(撮影：森本 委利)



“今年はいじめの赤ちゃんで～す”

エランドの赤ちゃんが1月24日に生まれました。昭和59年8月以来、3年5か月振りのメスの誕生です。「純」と名付けられ、元気に育っています。

(撮影：中川 哲男)

動物園グラフ

“立春の園内風景”

暦の上ではもう春です。今年は暖冬のせいか珍しく暦通り春の気配が感じられる今日この頃、鳥達は巣作りを始め、南方型の動物は本格的な暖い春が来るのを待っています。

(撮影：野口 秀高)



春を感じさせる園内風景



寒さに弱いアメリカデイゴは春までワラの服を着ています。



樹木の冬対策、剪定作業



ソテツも寒さに弱い植物です。

1月の動物園日記

- 1 / 1. キーウイ、ハリモグラの体重測定を行ないました。
- 1 / 2. 新年最初の催しとして、展示館にてエトにちなむ「タツの郷土玩具展」が始まりました（～2/14まで）。またレクチャールームでは、園長からの年頭のあいさつの後、動物映画会が行なわれました。（～1/3まで）
- 1 / 4. トビを1羽保護しました。
- 1 / 6. チンパンジーの内部寄生虫の駆虫を行ないました。
- 1 / 8. 交換で来園したカリフォルニアアシカ（メ

- ス）の検疫が終了したので群れと同居させました。
- 1 / 9. 新ヒョウ舎建設のためスカンクなどの小獣類の移動を行いました。
- 昨年6月生まれのカリフォルニアアシカの体重測定を行ないました。
- 1 / 10. タスマニアデビルのオス“クロベア”が直腸脱になったので手術を行ないました。
- 1 / 13. ウミツバメを1羽保護しました。
- 1 / 14. 11月2日の隔離以来、世話のための入室もひかえていたホッキョクグマ舎に担当者が入りました。子供は確認できませんでしたが、元気な母親を認めてエサを与えました。



ホッキョクグマは冬はヘッチャラ。



ヒグマは少し寒そうです。



暖冬で今年は早く咲いたスイセン。



もう巣作りを始めたシユバシコウ。

- 1 / 15. ホッキョクグマ舎で、昨年11月16日に生まれた子供1頭を初めて確認しました。
- 1 / 16. 新ヒョウ舎建設のため、旧小獣舎の解体が始まりました。
- 1 / 17. 第33回動物のお話とスライドの会を開催しました。
- 1 / 18. 新しく来園したショウガラゴのメスの検疫が終了したので、群れと同居させました。
- 1 / 19. 「なきごえ」の編集会議が開かれました。
- 1 / 20. 翼の骨折でピン固定していたマナヅルのオスの骨髄内の固定ピンを取り去り、レントゲン検査も行ないました。
- 1 / 21. 昨年生まれのオオサマペンギンのヒナが、

- 屋外プールで初泳ぎをしました。
- 1 / 23. バードケージにてアオサギが巣作りを始めました。
- ホッキョクグマ舎の産室で大きなネコくらいに育ったホッキョクグマの子供を確認しました。（68日齢）
- 1 / 24. エランドのレオがメスの子を出産しました。
- 1 / 28. ブラックバックのメスが左後肢の足根関節を脱臼したので、固定手術を実施しました。
- バードケージに展示中のシュモクドリは巣から交互に出てきてエサを食べるため、産卵し卵を抱いているのかも知れません。

村崎龍雄



筆者とパートナーの三平

昭和53年9月3日、日本列島からいちど消滅した猿まわしを、復活デビューして今年で丁度10周年を迎えました。現在、反省ポーズで人気の、太郎・ジローコンビ。ウオークマンのコマーシャルで人気の五郎・チョロ松コンビをはじめ、6組の班で活躍出来るまでになりました。復活した猿まわしを応援して下さる多くのみなさまに、感謝したいと思います。

この10年間、猿達と一緒に生活していい経験をさせて貰いました。まず、猿とコンビをくみ、コミュニケーションをもち始めるだけでも大変でした。周防猿まわしの会の調教の基本は、調教師が猿のボス猿になることから始まり、芸猿に育てたい猿と1対1の対決をします。具体的には、素手でとっくみあいをし、猿の背中に調教師が、咬み付くのです。相手がいくら小猿だからといっても、野生の猿ですから、油断すると大怪我をする場合もありますから一瞬たりとも気が抜けません。この過程を、周防猿まわしの会では、(儀式)と呼んでいますが、うまく儀式ができれば、自分のボスと認め調教師のがわに、一歩、近づいて来はじめます。

テレビなどで、幾度か儀式的場面を放送していただく機会がありました。なかには、人間が猿に咬み付くなんて、残酷だと言った意見もありましたが、猿達にとっては、野生の生活の中に、母猿や目上の猿達から背中を咬まれて、間違いを教えられると言った習性のひとつがあり、この習性を活用することがいちばん無理のない、コミュニケーションの始ま

りだと考えています。

儀式が終わると、一人前の猿まわしめざしてコンビの修業が始まりますが、基本的な芸を覚え人前で芸を披露するまでには、3年から5年がかかります。よく旅先で「猿によって、物覚えの良い猿と、物覚えの悪い猿とがいるでしょうね。」と言った質問を多くうけますが、生まれつき身体に障害がある猿とか、年を取り過ぎていては別に、基本的には、野生で育った猿でしたら大きな差はないようです。

猿と付き合ってみて思うのですが、猿は大変まじめな動物だと感じています。日に2時間、3時間と訓練を続けても、一生懸命頑張っついてきます。逆に、訓練の時、調教師の側が気を抜いたり油断があったりすると、チャンスを見付けたようにさぼる努力を始めます。猿はどう生きるにも一生懸命です。日本の山の中に、どれだけの数の猿達が生きているか解りませんが、縁があって猿まわしの芸猿として、



猿生を歩むわけですが、芸猿として猿生をまっとう出来る様に、導き、共に生きる調教師の責は重大です。

猿達はよく、喜びを表現します。多くの人たちの前で演技をし、たくさんの拍手をうけた時などは、その場で飛びはねたり、体を揺すったり、低い声でホッホッと、自慢たっぷりに唸ってみたり、猿によって、それぞれ形はちがっても、喜びを感じ、それを素直に表現することには、変わりありません。特に、ながい旅が終わり久しぶりの帰郷の時などはどの方角からの帰り道でも、20キロ位手前から、気がふれたのではないかと思うくらいの、喜び方をします。そなえつけの猿舎にしがみつき、走行中の車が横揺れするほど、ゆらしながら、大きな声で、ガアッ、ガアッ、と叫ぶのです。まるで、「帰ってきたぞー。帰ってきたぞー。」と、故郷に向かって叫んでいるようです。

4年前のことですが、久しぶりに会長がツネキチ

を連れて、東京事務所に出張しました。ツネキチをジローやチョロ松と一緒に猿舎に入れてやりましたが、猿舎の中で、どう相談したのか、3頭が猿舎の屋根を壊して、脱走してしまいました。

夜中に脱走したらしく、朝、気づいたときには、3頭が別々の方角に逃げていました。幸い、ジローは脱走経験が豊富であまり遠くにはいかず、事務所の近くで見つかりましたが、ツネキチとチョロ松は、遠くに逃げたため、みなさまの通報で、保護するのにまる一日かかりました。これからずっと、猿まわしのなかで語り継がれるであろう逸話がうまれました。

まず、チョロ松ですが、あっちこっち逃げ回ってあるオモチャ屋さんに、飛び込みました。お店の方が、昼のテレビのニュースで猿まわしの会の猿が脱走している事を知っていらっしゃいましたので、店の出入口を締め、東京事務所に連絡を下さいました。



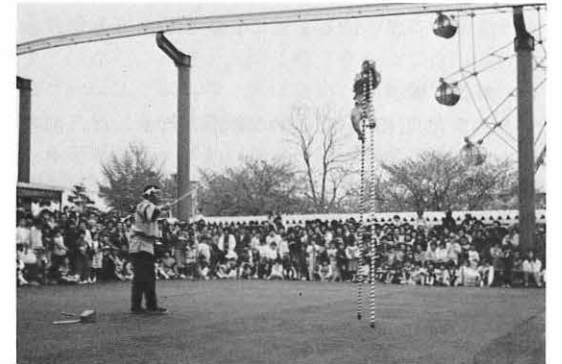
山口県光市にある猿まわし小劇場

さっそく、そのオモチャ屋さんに、チョロ松を連れもどしに行ったのですが、店のなかを捜しても、チョロ松の姿が見当たりません。二度、三度と、よく捜したら、なんと、猿のぬいぐるみと並んで、行儀良く、チョココンと座っていたのです。きっと、うまく隠れたつもりだったのでしょう。

さて、ツネキチの方ですが、大変臆病もので、人の居ない方へ居ない方へと、逃げたようです。やはり、みなさんの通報で、国鉄の変電所で見つかりました。場所が場所だけに一歩間違えれば高圧線にふれて、せっかくの命を失うところでした。

3頭とも無事保護された翌日。近くのアパートの5階に住む、御夫婦が尋ねてこられ、「夢のような、とても楽しい体験をさせていただきました。」と、話をされました。その御夫婦の話によりますと、前日の昼まえ、夜勤あけでお風呂から上がり、ビールを

飲みながら一服していると、ベランダの窓ガラスを叩く者がいる。「へんだなー？」と思いながら窓ガラスを開けてみると、猿が一頭、直立不動の姿勢で、立っていたのです。いっしゅん、びっくりしたのですが、ビールのつまみの殻つきピーナッツを与えてやると、ピーナッツをガツガツ食べたそうです。ビックリしたのは、その猿がピーナッツを食べ終えたあと、突然、逆立ちの芸を見せてくれ、その後、ふかふかと挨拶をして、5階のベランダから、下に降りていったそうです。猿が去って、しばらくしても信じられず、お互いに顔を見合わせたりしたそう



ですが、夕方のニュースで、周防猿まわしの会の、芸猿が、脱走していたことを知り、確認と、御礼と挨拶方々、尋ねて下さったのでした。ちょっと、信じられないような、でも、本当の出来事なのです。

最後になりましたが、復活した、周防猿まわしの会のこの10年は、アッと言う間の10年でした。猿まわし通信75号(月1回発行のハガキ通信)で会長が記していますが、会結成当時の10人のメンバーで、現在、会に残っているのは会長一人です。いかに厳しい歳月だったかが、理解して頂けるとと思います。1000年以上も、日本民族が守り培ってきた猿まわしです。一時期、途絶えていた時期があったにせよ、再び、日の目をみることができました。この伝統を受け継ぎ、正しく発展させるのが、今の時代に育った私達の責務だと思いますが、新生猿まわしの歴史の歩みも、始まったばかりです。ひとりでも多くのみなさんに、暖かい目で見守っていただければと、思っています。

ご支援のほど、宜しく願い致します。

(周防猿まわしの会調教師)

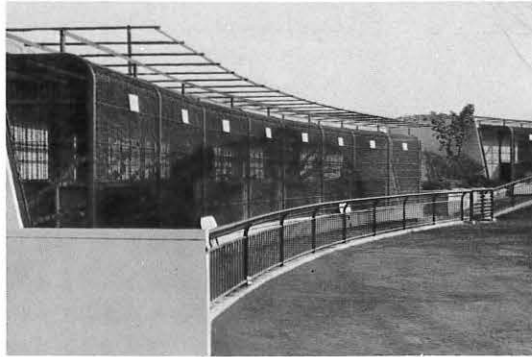
松下 達夫

§ はじめに

それまでの小獣舎の一部を小形ネコ舎に新設されることになりました。一昨年のごとです。飼育係員や獣医師ら十数人でプロジェクトチームを作り、どんな動物舎にすれば動物が見易く、動物にとって快適で、飼育担当者にとっても仕事がやりやすいか、この三点に主眼を置いて討論が行われ、その結果をふまえた設計図を作って、建設が始まり、昨年4月1日に小形ネコ舎は完成しました。オープンしてほぼ一年たちましたが、この三点がどこまで実践されたかどうか、この一年を少し振り返って、小獣舎との違いを、思い付くままにお話ししようと思います。

§ ガラス展示

小獣舎は昭和43年12月に建設されました。部屋数は20室で、とりこわす直前にはキタキツネ、ホツ



昭和43年にオープンした小獣舎

キョクギツネ、アライグマ、ジャコウネコ、ヤマネコ等20数種の動物を収容していました。鉄格子のオリ式と動物を覗き込むピット式とに分かれ、寝室は各1室で、シャッターはワイヤーで吊り下げた上下式でした。また、放飼場も寝室もコンクリート床でした。また、人止柵があったのですが、入園客が乗り越え、動物にイタズラをすることも度々ありました。

これに対し、小形ネコ舎は8室で、ネコ科はオオヤマネコ、ボブキャット、カラカル、ジャングルキャット、アジアゴールデンキャット、又、ジャコウネコ科はコジャコウネコ、マレージャコウネコ、ハクビシンを展示しています。この小形ネコ舎ではジャコウネコ科の3室がピット式で、残りのネコ科5室はガラス張りにしました。今までの動物舎は鉄格子のオリに動物が入っているため、収容されているというイメージがありましたが、ガラス張りにする事により、動物がそこで暮らしているというイメージに変えることができました、と思っています。また、動物をガラス越しにすぐ間近で見ら

れる、ということも大きな特徴です。これは動物の体の細かい点まで観察するには最適で、私達、飼育係員にとっても、怪我の状態などを見るのに好都合です。



子供たちに人気のガラス展示

特に、このガラス展示は子供たちに人気があります。ヤマネコ類はガラス付近で行ったり来たり動き回っていることが度々あるのですが、子供たちもガラス越しに一緒に動いて楽しんでます。

しかし、その反面、寝ている時やヤマネコを自分の方へ向かせたい時などにガラスをたたく人も沢山いますので動物にとって本当に最適だったのか、ちょっと疑問に感じます。お客さんの良識に訴えたいところです。

§ 寝室と放飼場

新しい小形ネコ舎は小獣舎に比べて放飼場も寝室も広くなり、清掃の面でも大変やりやすくなりました。小獣舎では朝に放飼場を清掃する時、原則として動物を寝室に収容してから行うのですが、その寝室が1室しかなかったため、体の大きいオオヤマネコやカラカルなどは1頭しか収容できず、1頭が放飼場に出たまま、そこへ私が入って清掃をしていました。放飼場も決して広いとは言えませんでしたので、大変危険な面もありました。夕方の清掃の時も完全収容はできませんので、寝室のシャッターは開放にしていました。

反対に小形ネコ舎では寝室が2室あるので夕方に完全収容でき、放飼場の清掃も安心して行えます。

次に餌の摂取量ですが、小獣舎の場合、放飼場に餌を分けて置いていたのですが、やはりオスが先に食べることが多く、メスが食い負ける、というのが目立っていました。しかし、小形ネコ舎ではオスとメスを分けて収容していますので、確実に個別別に与えることができ、食い負ける心配はなくなりました。また、摂取量もよく分かりますし、糞便も個別別に観察でき、検便等も確実にに行えるようになりました。

また、小獣舎では生き餌などを与える場合に、入園客から見えるので、あまり与えられませんでした

が、小形ネコ舎では入園客から見えないので週に1回肉類は与えず、ヒヨコ、マウスなどの生き餌を与えることができるようになりました。



小形ネコ舎のオオヤマネコ

§ 暖房について

暖房の面では、小獣舎では寝室に赤外線ランプを取り付けて、床に敷板を置いていただけでした。シャッターも開放していたので寝室に入って来る風を防ぐことができず、赤外線ランプの効果もあまりなかったようです。放飼場も鉄格子の間から風が入り込み、冬の寒さは動物にとって厳しかったろうと思います。

小型ネコ舎では床は樹脂で、温度調整ができるフロアヒーターがあり、タイマーもセットできます。寝台も設置し、その上には赤外線ランプも取り付けられています。また、シャッターにはアクリル板が取り付けられるようになっていまして、寝室へ入ってくる風は完全にシャットアウトできます。寒さに弱いヤマネコ類でも寒い冬を快適に暮らしています。

放飼場は前面がガラスで、そのうえの一部がステンレス網ですが、ガラス部分だけでも、風が入って来ないし、シェルターもありますので、以前と比べれば風を十分に防ぐことができました。

§ 管理の面で

放飼場を自然に近い状態にする為、床は以前のコンクリートから砂にし、動物の生息地域に応じた樹木や花を植えました。やはり、咬んだり、じゃれついたり、引き抜いたりして、一日でメチャメチャにしてしまいました。そこで、何回か植え換えもしましたが、何回しても結果は同じでした。ヤマネコたちはオモチャでも入ってきたものと思ったのかもしれませんが、私たちがどうすれば植木を長持ちさせられるか、今後十分検討を加え、緑の多い動物舎にして行きたいと考えています。

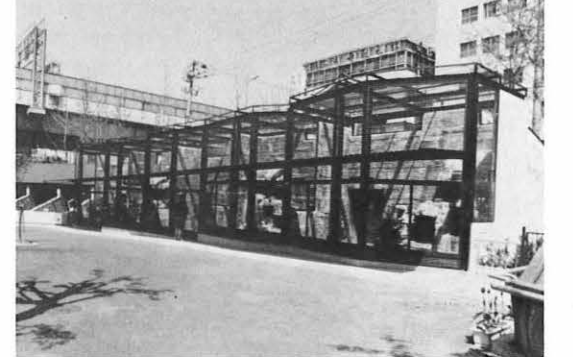
その他、小獣舎と比べて管理しやすくなった点に、寝室及び放飼場の水飲み場があります。以前は放飼場には水飲み場があったのですが、寝室にはなく、病気が出産で寝室に収容している時には扉を少し開け

て水を換えていました。これは少し危険でしたし、水入れをすぐにひっくり返したりして管理が大変でした。しかし、現在は各寝室に水飲み場があり、水を換えるのもキーパー通路から給排水ができるので、とても管理し易くなりました。また、水飲み場の中によく便をする為、網籠を設置しましたが、このお蔭で清掃の面でもやりやすくなりました。また、寝室の扉には餌の投入口を設けたので動物を収容してから餌を入れることができるようになりました。この為、オスが先に入ってきてメスの餌まで食べたり、餌をくわえて放飼場に出ることも防げるようになりました。

また、キーパー通路には予備ケージも設置され、病気や怪我、出産の時などに収容することができるようになり、管理が大変し易くなりました。この予備ケージは3室あり、床は寝室と同じ樹脂製です。フロアヒーターは設置されていないのですが、天井から赤外線ランプを取り付けています。風が入って来ませんから、冬でも快適だと思います。3室のうち、2室がスクイジングケージになっていて、これは治療する際に大変便利です。もう既に、この予備ケージはハクビシンの出産に使われ2頭の子供が成育しましたし、マレージャコウネコの治療の際にも役立ちました。

§ おわりに

小獣舎の一部のピット式動物舎は本年1月11日から



小型ネコ舎全景

取り壊され、春には新ヒョウ舎に建て替えられる予定です。この新ヒョウ舎もガラス展示で、ヒョウ、ジャガー、ピューマを間近に見ることができるようになります。これもプロジェクトチームを作って、何度も会議を開き、十分検討されたものですから、完成の際にはきっとお客さまによるこんでいただけるものになることでしょう。

これからも職員一同努力を重ね、動物にもお客さまにも喜んでいただける動物舎を建設して行きたいものだと考えています。

(飼育課)

キーパーズ・アイ

☆ ラッコよりかわいい

コアラやパンダなど天王寺動物園にはまだ飼われていない人気動物がありますが、ラッコもそのひとつで、時々「ラッコはどこですか？」と聞かれます。

まあラッコはいませんが、南園アシカ池にはカリフォルニアアシカ達に混じって1頭だけミナミアメリカオットセイの通称“オヤブン”がいます。このオヤブンの仕草がラッコとそっくりなのです。ラッコのように手は器用に使いませんが、水面でくるくる回ったり、仰向けで手を振ったり色々な仕草をします。一度よく見てあげてください。

“オヤブン”と呼ばれていますが、実はメス。推定16歳と高齢ですが、まだまだ元気でアシカのボス“ナポレオン”とケンカしても一歩も引けを取りません。しかし、年のせいか目が少し悪くなってきておりエサを食べにくいのか、痩せてくる事もあります。そんな時は私が「オヤブン、おいで！」と呼ぶと、近寄ってくるので、好物のアジを多めに与えます。

毎朝、出勤してくる時には岩の上で寝ていて「オヤブン!!」と呼ぶとこっちにやってくる。

こしがオットセイの“オヤブン”だ!

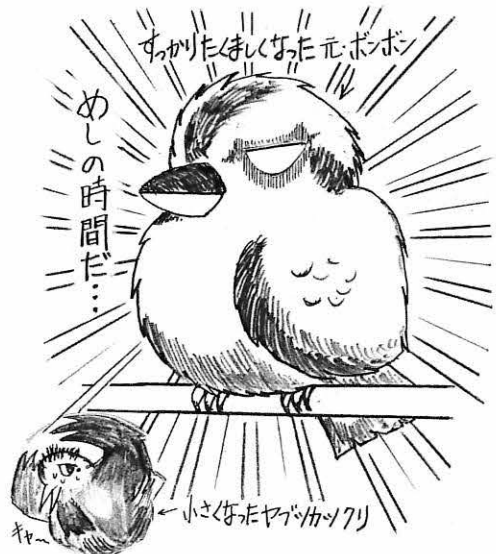


あまりにおとなしすぎるので、エサをやれなくなるお客さんが多いようです。

皆様も、アシカに比べると全体的に黒っぽく、頭がアシカのツルツとした感じとは違ってゴワゴワとした“オヤブン”を探してみてください。きっとカワイイと思うから。

(飼育課：東 政宏)

☆ 氏より育ち?



育った環境は性格によく現れるもので、“この人は長男だろう”とか“末っ子”だとか思った事はないですか。動物達も育った環境によって、いろいろな

性格のものがいます。

一昨年繁殖したワライカワセミは一人っ子でした。生まれた時には、親からエサをもらっていたし、親と別れて1羽になってからも、与えられたエサを他の鳥に取られる心配もなく、のんびり暮らしていました。

そんなボンボン育ちのワライカワセミがヤンチャ坊主のヤブツカツクリと同居する事になりました。いつものようにエサをやりに行くとヤブツカツクリがワライカワセミの分も全て食べてしまいました。多めに与えればよいのですが、世間の辛さを教えるため2~3日そのまま様子を見ました。4日目ともなるとさすがのボンボンも“これはえらいこっちゃ!!”と思ったのか、私がエサを入れに行くと入口の所まで来て待つようになりました。

あれから一ヶ月、今では満腹の時でもエサを口にくわえて、ヤブツカツクリに取られないようになっています。

これで彼も少しは大人になったかな?

(飼育課：早川 篤)

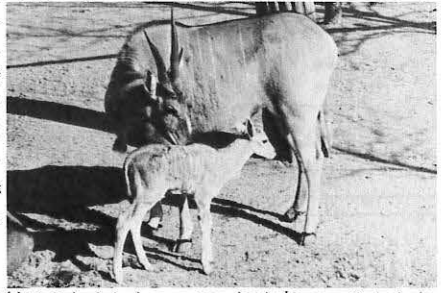
動物園ニュース

§ ホッキョクグマの赤ちゃん確認

ホッキョクグマの赤ちゃんが11月16日に生まれたことはすでにお知らせしましたが、生後59日をむかえた1月14日に初めて飼育担当者が母親の“ユキコ”への給餌のため、ホッキョクグマ舎へ入りました。その日は残念ながら赤ちゃんの姿を確認することはできませんでしたが、翌15日にはかわいい赤ちゃんの姿を確認することができました。当初、マイクロフォンを通して聞こえる声から赤ちゃんは複数生まれていると思われていましたが、確認された赤ちゃんは1頭だけでした。赤ちゃんはすでにネコぐらいの大きさに成長しており、まっ白な毛に包まれた子グマはまるでヌイグルミのようでした。その後、毎日母グマへの給餌と赤ちゃんの観察のため1日2回ぐらい飼育担当者がホッキョクグマ舎の中へ入っていますが、母親もたいへん落ちついており、子グマも日に日に大きくなっています。現在のところまだ飼育担当者以外はホッキョクグマ舎に入らないようにしています。このまま順調に成長すれば、3月下旬には一般公開できると思われます。かわいい子グマの姿をご覧いただける日をご期待下さい。

§ エランド誕生

今年第1号の赤ちゃんの誕生は、1月24日に生まれたエランドの赤ちゃんでした。エランドの赤ちゃんは昨年2頭生まれており、順調に繁殖しています。母親の“レオ”は今回が3回目の出産です。前回は昨年の4月20日に出産しており、エランドの妊娠期間は250~270日といわれていますので、予想外に早い出産に飼育担当者も驚いています。寒い日が続くため、赤ちゃんは寝室に入っていることが多いのですが、暖かい日の日中には母親の後について歩く赤ちゃんのほほえましい姿をご覧いただくことができます。赤ちゃんはメスで、さっそく“純”と名付けられました。エランドは東アフリカから南アフリカに生息する最も大きなカモシカの仲間ですので、赤ちゃんといえども体重は30kgぐらいあります。



§ フクロギツネの赤ちゃん誕生

1月23日、展示しているフクロギツネのメスの袋の中に赤ちゃんがいることが確認されました。袋から顔を出すようになるまでは、まだしばらくかかるものと思われます。

また、昨年の9月に確認された隔離中の別のメス.....☆.....☆.....☆.....☆.....☆.....☆.....☆.....

現在の飼育動物数

(昭和63年1月31日現在)

哺乳類	13目	104種	436点
鳥類	20目	199種	619点
爬虫類	3目	35種	93点
合計	36目	338種	1,148点

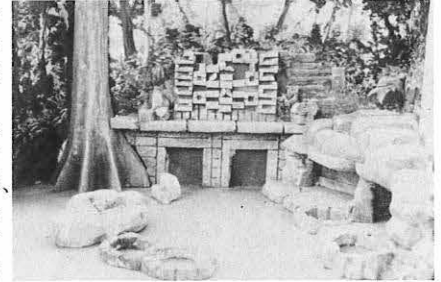
の赤ちゃんは順調に成長し、1月初旬から袋から時々顔をのぞかせるようになりました。残念ながら隔離室に収容しているため親子の姿をご覧いただくことはできません。当園のフクロギツネ



の繁殖はたいへん順調で、この2頭の赤ちゃんを加えて、7頭にもなりました。

§ ヒョウ舎建設工事始まる。

新しいヒョウ舎の建設工事が1月14日から始まりました。建設場所は昨年4月に完成した小形ネコ舎の東側にあたる旧小獣舎の東半分があった場所です。新しいヒョウ舎にはジオラマ展示を採用し、生息地の環境に合わせて、ピューマは岩山、ジャガーはアマゾンのジャングルと遺跡、ヒョウはアフリカのサバンナを再現したものになります。観客側は小形ネコ舎と同様、ガラスを用いますので、動物が大変見易いものになります。



建設工事は急ピッチで進んでおり、4月末には完成し、5月10日頃には一般公開できる予定です。このヒョウ舎が完成すれば、小形ネコ舎からライオン舎までネコ科動物で統一されます。工事中、一部の園路は通行止めになりますのでご了承ください。

●お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
 - 3月20日(日) 動物クイズ
 - 4月17日(日) カバのお話
 - 5月15日(日) 新しいヒョウ舎のできるまで
- 時間：午後1時~2時
- 於：北園レクチャールーム

●テレフォンガイドのお知らせ

N T T 堺電報電話局では、天王寺動物園の動物のお話やおもしろいエピソードなどのテレフォンサービスを行っています。電話番号は0722-23-0909で、内容は半月ごとに変わります。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。(3月は祝日と重なりますので翌日が休園日です。)

3月22日(火)、4月18日(月)、5月16日(月)、

開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。



ゆとり満喫、信頼のカード。

ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード (キップス) **KIPS**

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店 お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階
(京都ファミリー)

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか? 動物園での世話
の仕方は? 仲間とは? など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかがいたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしと かがいた

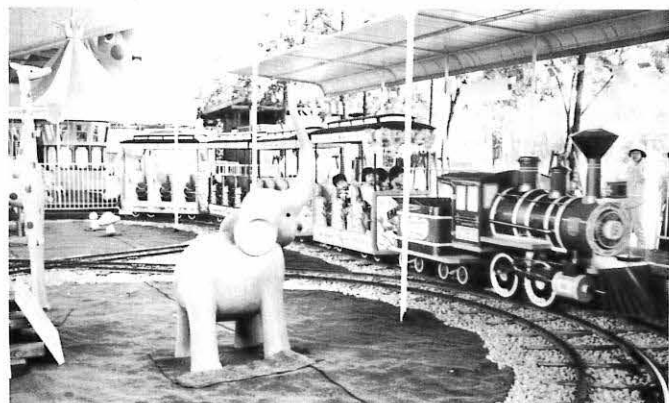
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしと かがいた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく

フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対 象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸 出 料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申 込 先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。

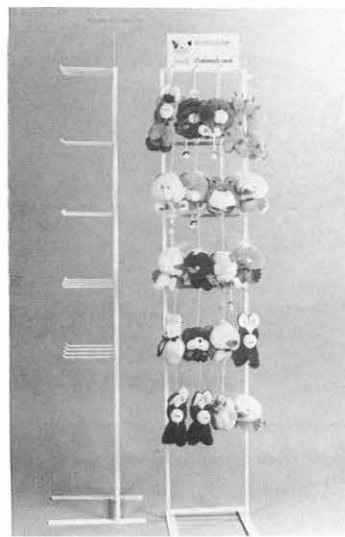
動物観察の手引に

天王寺動物園 ガイドブック

のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

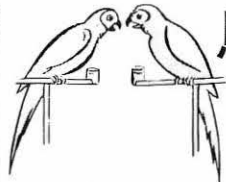


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

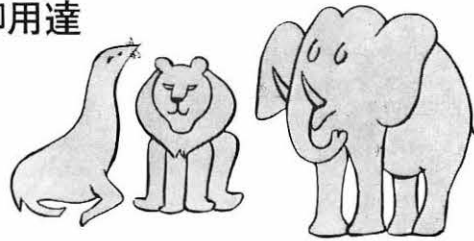
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの) 要郵便券250円

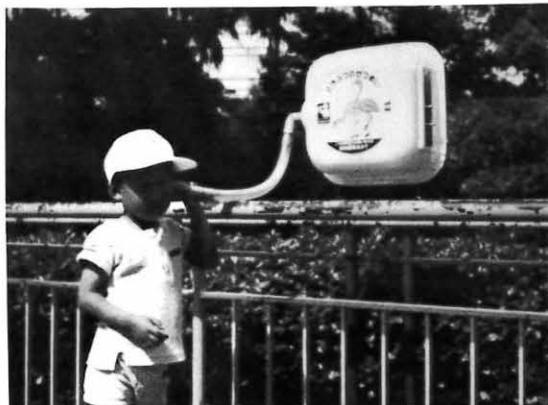


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

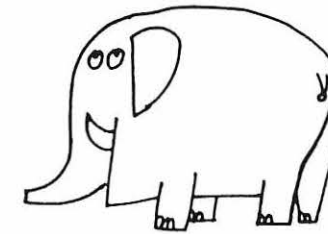
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は...

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

もっとおいしく もっと元気に!... 雪印



雪印ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにもピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和63年3月10日発行(毎月1回10日発行)第24巻 第3号 (通巻271号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

編集委員

(土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/齊田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/薮野幸司/堀 弘/大川光雄/新出悦央/土谷正道)